

# Architecture of the resident by the resident for the resident

高橋克彰

制作主旨

本建築物はタイトルのように住民の、住民による、住民のための建築物であることを目指してつくり、習志野のドームをイメージしたものです。そのために、部材をなるべくコンパクトにし、施工時も人の力だけでできるように配慮しました。その一つ目が、組石造をヒントにし、分割されたアーチをタイロープで締め安定化するものです。次に、私が最も力をいれた「展開式六角パネル」です。このパネルは、屋根のリフトアップに用いられ、そのまま壁になる仕組みです。しかも、架台を用いなくてもよいように2段階に分けてリフトアップできるようにしました。その秘密は、中のケーブルの架け方によるものです。これは、六角形を安定させるにはどうしたらよいか毎日悩んだ末に生まれた自信作です。

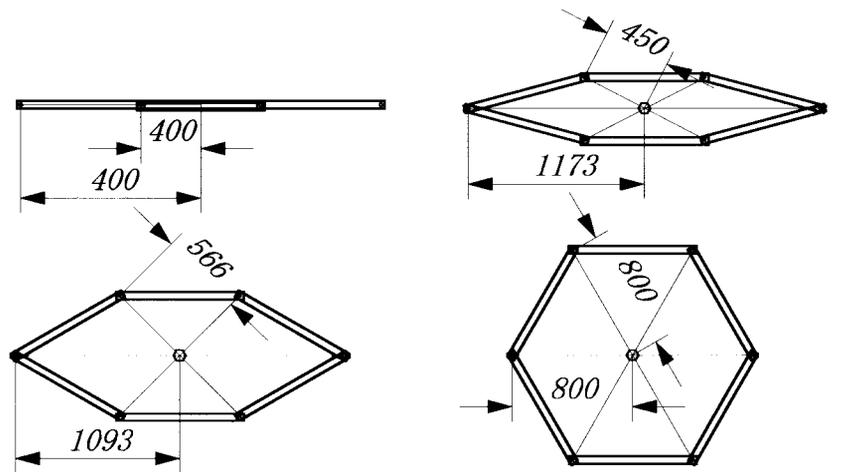
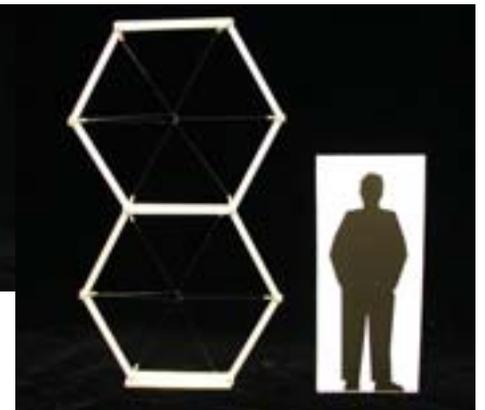
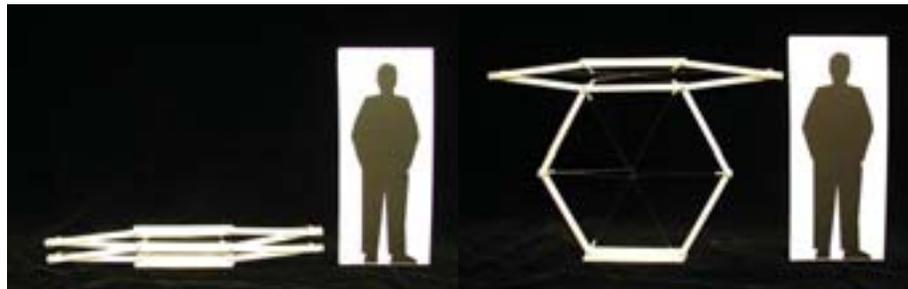
このように、常に習志野ドームのような手作業による「ものづくり」をみんなで行き、人の和を少しでも広げることができればよいと考えながら設計しました。

講師評：斎藤公男

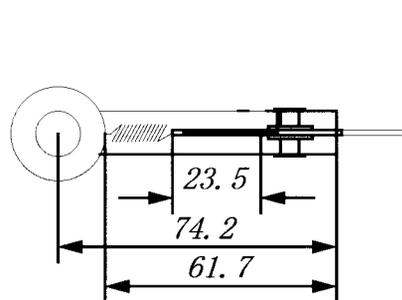
今日、地域の活性化を目的に様々なワークショップが企画・開催され、その中でも特に体験講座への注目度は高い。高橋君の作品は、地域住民のコミュニティーの一段として、「ものづくり」の場を提供することをテーマとし、手軽につくれる“仮設建築物”を提案したものである。住民の手でつくる仮設建築物の提案に際しては、運搬性・収納性に配慮することはもちろん、特に施工性（誰にでも短期間で、簡単に、安全につくれること）が重要な項目となる。その解決策として、屋根のアーチ材を細分化することで各部材長を短くする工夫や、屋根を支える壁を六角形パネルとし、パネルを安定させるケーブルの配置を工夫することにより展開可能なパネルとするなどの工夫が行われている。中でも「展開式六角形パネル」は、オリジナリティーに富む独創的なアイデアであり、特に、展開途中で歪エネルギーが最大となる状態を通過することで、展開後の安定性を獲得するメカニズムはユニークである。また、幾つかのジョイントの提案を行い、実大模型による展開性の検証を行ったことも高く評価できる。構造的な安定性、ディテール部分の詳細な検討を踏まえれば十分実現可能な提案であり、今後の発展に期待した。



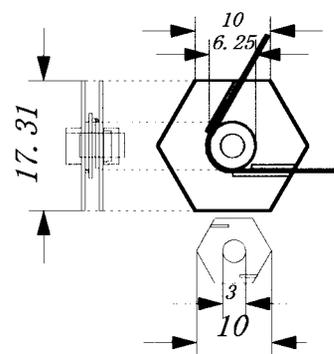
施工手順



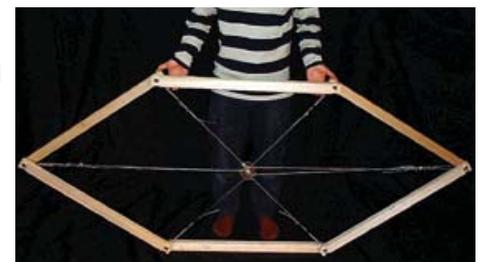
六角形パネル展開図



ケーブル端部詳細図



中央ジョイント



アーチ部材

六角形パネル